

8・9月号

学校教育目標

ゆたかな子 たくましい子 かしこい子



# 東大成小だより

さいたま市立東大成小学校

令和4年 8月26日

ホームページ:<http://higashionari-e.saitama-city.ed.jp>

Te1 663-3210

Fax 663-9883

## 非認知能力を高める大切さ ～特別活動を生かして～

校長 岡田 健彦

夏休みの閑散とした学校から子どもたちの笑顔と歓声に満ち溢れる活気のある学校に戻りました。教職員一同、子どもたちのパワーを受けとめ、熱意をもって職務に励んでいます。「みんなが笑顔の東大成小学校」の2学期がスタートしました。

さて、「小学校の楽しかった思い出は何ですか?」。私は、教育実習中の大学生や保護者の方によく尋ねます。すると、「遠足」「修学旅行」「キャンプファイヤー」「クラブ活動」「お楽しみ会」「給食」「〇〇小まつり」「スポーツ大会」などの答えが返ってきます。これらは、どれも特別活動という「学級活動」「児童会」「クラブ活動」「学校行事」が含まれる領域の時間です。

では、なぜ何年経っても思い出として残っているのでしょうか。それは、きっと、自分たちで話し合い、自分たちで決め、決まったことをみんなで力を合わせ、責任をもってやり抜いたことが「達成感」や「成就感」につながったからではないかと思います。そして、自分の「役割」が他者から認められたことで「喜び」に結びついたからではないでしょうか。小学校の教育課程の基準である小学校学習指導要領に「人間関係」という言葉が示されているのは、この特別活動だけです。特別活動には、「望ましい集団活動をとおしてなすことによって学ぶ」特質があります。

夏休み中に、全国学力学習状況調査の結果が報道されましたが、実は、学力は、単なる知識を覚える認知能力を鍛えるだけでなく、非認知能力を高めることで真の学力が身に付くというエビデンス(根拠・裏付け)があります。国語や算数等の教科は学力に直結する認知能力を高めるうえで大変重要ですが、特別活動は、テストでは測れない「やり抜く力」や「人間関係を調整する力」などの非認知能力を高めるうえで極めて重要です。学級会や児童会で話し合いをし、どうしたら皆と折り合うことができるのかをよく考えることで人間関係を築く力が育ちます。夏休み中には、さいたま市子ども会議やいじめ防止シンポジウムが行われましたが、本校からも6年生代表児童が参加しました。子どもたちの願いは、話し合いをとおしてさいたま市の子どもたちの声として実現されるのです。こういった自ら考えて参画し実行する活動が真の学力の育成に結びつく実感します。

2学期は、学習の充実期であると同時に校外学習をはじめ様々な行事が予定されています。本校の子どもたちに「なすことによって学ぶ」機会を重視してまいります。コロナ対策を徹底しながら前向きに教育活動を進めていく覚悟です。